

地域のソフトなチームでの心理職の役割

藤 信子 : 瀬尾 医院

(全国保健・医療・福祉心理職能協会)

1. 地域における精神保健チーム

従来の入院医療におけるチームのように、同一機関内に多職種の配置が可能な場合と異なり、精神医療機関の資源に乏しい地域の診療所では、必然的に保健所、作業所など精神保健・福祉機関やまた学校等の教育機関との連携が多くなっていく。専門機関が都市部程充実していない地域において、リハビリテーション、メンタルヘルスをすすめるために、地域における想定される利用者層と、現在提供可能なサービスの特徴を見ることでチームの今後のあり方を考えたい。

ここで取り上げる当診療所は政令指定都市に隣接する人口10万弱の市にあり、この市と周辺の町における数少ない精神科医療機関であるために、都市部の診療所と比較すると教育機関からの相談が多いことが一つの特徴ともいえる。この診療所で心理相談を開始して4年間で経験したことから、地域の中でできるソフトなチームの特徴と、そこでの心理職（以下CPとする）の役割について概観する。

地域におけるソフトなチームとは、利用者を巡る一時的、機関を越えた多職種・役割の連携のことをここではそう定義したい。

①チームの例

子供の「問題」では以下のような人々、機関がまず関わってくる。

家族

医療機関：精神科医，CP・・・

学校：担任，養護担当，教育相談担当・・・（校長）・・・（教育委員会）・・・

子供の問題では、親が直接に診療所に相談にくる場合より、学校からの紹介で相談にのることになる場合に、家族と学校の子供に対する見方は一致していないことが多く、ここにチームという観点からのとらえ方が生かされる。

- ┌ 家族：対応になれている，その子への対応で融通が効く，
- └ 学校：集団への対応，学習の進み方への不安，事故等への不安

学校側としては、当然ながら精神科や心理相談に問題の除去（症状の改善，登校の再開その他）を期待し，学校集団への適応を望みがちである。家族にしてみれば，極端な場合は学校での問題児扱いを受け，クラスから排除されるのではないかという不信感を持つ場合もある。この学校，家族はそれぞれ一つの集団と見なすこともできるが，それを図示したのが，図である。この2つの集団はいずれも子供にとって，育つ環境であるが，それぞ

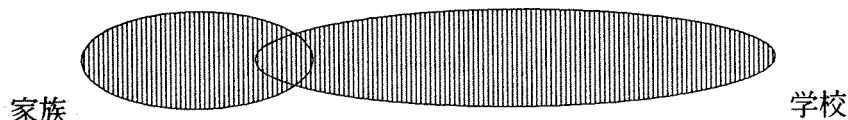


図 学校集団と家族集団

れの集団の課題・価値を持つために集団内のメンバーである子供に対する期待を持つ。通常はそれは目立たないが、「問題」が起きた場合には先に述べたようなギャップを生じる

こともある。このギャップの認識と、子供がこの二つの集団の中でメンバーとして落ち着けるように、調整していく過程に双方から距離をとれる位置で心理相談がある。

②心理相談の具体的なポイント

家族に対して：発達水準等の構造を理解するために心理検査やプレイセラピー等も含んだアセスメントも行いながら、家庭での期待、学校での獲得目標等を家族と考える。ここでは家族の不安を受け止められるかがポイントになる場合が多い。今のように学校の力が強く、その価値観に従うことが当然であるかのような傾向では、学校の意見と違うことを主張するのは、難しいと感じる家族は決して少なくないからである。

学校に対して：子供の発達の段階に起こる葛藤と問題との関係等も含め理解を得、宿題の軽減をはじめ環境調整をお願いすることが多い。その時に医療機関の心理相談は、「すすめられたにせよ、来院してきた人」にしか会えない、来院を決めるまでの葛藤を克服しているから、相談をうけても効果がやすいことを説明しておく。これが学校でいろんな問題をかかえながら、相談に結びつかない先生の苦労とは違い、心理相談の働ける限界であるという説明は過大な期待と幻滅の結果へとならないためには必要なことだと考える。

このように地域においてソフトなチームが機能するためには、それぞれの集団一例に述べたのは家族、学校そこにこの場合診療所という機関も子供にとって一時的に属する集団となるわけであるが、自らの集団（家族も含むが一応機関と言い換えられる）の機能、価値観等についてメンバーに何ができるのかを他に明確にしていく必要がある。それぞれの特徴と限界を知ることで連携が可能となるのである。

II. 病院のチームと地域のチーム

このような地域のチームと、従来の病院のチームにおけるCPの役割を見ることで、チームの特徴を見直してみたい。

病院においては各職種としての役割、視点が見えやすい。この場合も患者に対する見方は、それぞれの職種が各集団に属しているところから生じるものと言える。CPの役割はここでは患者の現在の問題を、その認知・思考の特徴という内的枠組みに沿った視点から捉えることで、体験の理解を深め、それを患者に伝えることである。この役割がチームの中で機能するためには、CPの理解したことをチームの他の職種に伝え、内的構造という視点からの理解という側面についてチームのメンバー間や患者とのつなぎ役となることである。地域におけるチームにおいても、先の例に示したように相談の対象者の内的枠組みからの理解を伝えることで、チームが共通認識を得るようなつなぎの役割は同様である。ただし、地域のチームは病院のチームと違い、そこでの生活を援助することが目的であるために、内的構造の特徴も例えば防衛機制などは「現在のその人の生活するためのしやすさ」との理解を強調する方が实际的である。地域ケアがすすむに従って、それぞれの集団では各職種が熱心さ故に、そこでのメンバーとしての課題を意識せずに期待してしまう機会が増えることも考えられる。リハビリテーションにおいては大切なことは、対象者が選択することである。そのためには内面への理解を深める視点は欠かせないとする。一方このような多様な職種や関わる人々の中でのチームにおいて、自らの役割や限界の認識を持って機能するためには、アイデンティティを保ち責任を持ちうる心理職としての資格が必要となってきた。